

《長崎新聞 平成 25 年 4 月 22 日朝刊より転載》

**【質問】**ヘリコバクターピロリの除菌が保険でできるようになったと聞きました。どついつ時に行うのでしょうか。  
(54歳、会社員男性)

## ピロリ菌治療

**【回答】**ヘリコバクターピロリ(以下ピロリ菌)は、胃がんなどを引き起こす細菌といわれています。従来は「胃・十二指腸潰瘍」「MALTリンパ腫」「特発性血小板減少性紫斑病」「早期胃がん粘膜切除術後」の四つの病気にしか保険での除菌治療が認められていませんでしたが、2月から慢性の「ピロリ菌感染胃炎」にも拡大されました。

50歳以上の日本人の約8割がピロリ菌に感染しているといわれています。一方、胃がんはわが国のがんの中で発生率第1位、死亡率第2位の多くみられる病気です。「除菌をすれば胃がんの発生が3分の1になる」ともいわれています。

ピロリ菌が存在するかどうかの検査は呼気、血液、尿、ふん便などを用いるため、苦痛を伴わずに比較的楽に検査することができ

## 胃炎の確認検査が必要

ます。ただし、除菌治療が必要かどうかは胃内視鏡検査で「胃炎があるかどうか」を調べる必要があります。治療は、2種類の抗生剤(アモキシシリンとクラリスロマイシン)と胃酸分泌を抑える薬(プロトンポンプインヒビター)を1週間

び検査しますが、苦痛を伴わない検査だけで、胃内視鏡検査をする必要はありません。この治療で70%以上の人は除菌に成功しますが、最近では耐性菌の増加により成功率が低下しているといわれています。1回目の治療で除菌がうまくいかない場合は、抗生剤を



服用するだけです。検査から治療終了まで入院や仕事を休む必要はありません。下痢や腹痛、肝機能障害などの副作用がありますが、多くの場合、治療を最後まで行うことが可能です。

服用後4週間以上たって除菌できたかどうかを再検査することになります。ただし、苦痛を伴わずに比較的楽に検査することができ

## がんの予防にも効果

変更し再度除菌を行います。ここまでは健康保険が使えます。除菌すれば胃がんが全く発生しなくなるわけではありません。たばこやアルコール、塩分の取りすぎなど、不摂生な生活習慣の改善が胃がん発生予防には必要です。また、除菌後も年に1度は、胃がん検診を受けることは必要です。ピロリ菌感染胃炎に対する除菌治療の開始により、胃がんの治療は「早期発見から予防へ」と大きく様変わりするでしょう。胃内視鏡検査を行っている病院・診療所の多くで可能な治療ですので、胃の調子の悪い方は相談をしてみてください。

(県医師会)

### 質問をどうぞ

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q&A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。